

【創域情報学部情報理工学科】

卒業認定・学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]

実力主義の伝統を堅持しつつ、高い専門性と倫理観、国際的な視野を持った情報技術系人材の養成を目標とし、以下の知識、能力等を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（情報学）の学位を授与する。

1. 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力。
2. 情報学分野に応じた基礎学力と、その上に立つ専門知識。
3. 学部教育を通じて修得した知識と訓練された思考力をもとに、自然科学・科学技術の分野だけでなく、社会における多様な情報を論理的に分析し、問題の発見、さらにはその解決に貢献しうる能力。
4. 修得した専門知識や教養をもとに、論理的・批判的に思考し、積極的に取り組むことのできる判断力・行動力。
5. 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力。
6. 修得した専門知識や教養をもとに、専門分野に応じたキャリアを形成し、自己を管理する能力。

教育課程編成・実施の方針[カリキュラム・ポリシー]

1. 創域情報学部情報理工学科は理学・工学の理論と技術を基本として、自然、社会、人間の各現象に関わる「問題」をどのように分析・解析し、本質的な部分問題へ分解するかを扱う「データ科学」と各部分問題を解決する理論や技術である手法を提案する「コンピュータ科学」、そして各問題に向けて、手法を手順として組合せ、構成する「知能メディア」、各手法を要求に合わせて社会実装する「社会システム」の4分野を主体的に学ぶことで、情報学における理論及び技術に関する基礎力と応用力を十分に有した、諸問題への対処と新しい領域及び新たな価値を創造する能力を備えた人材育成を目標に学士の教育課程を編成する。
2. 真に実力を身に付けた学生だけを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、2年次への進級条件を設け、かつ、単に専門知識や技術だけではなく豊かな人間性を育む教育課程を実践する。
3. 基礎から応用までの幅広い知識を身に付けた「情報技術」に関する専門家を育成することを目的に、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、各専門分野に応じた進路に必要な能力を養うための「専門科目」を配置する。
4. 「一般教養科目」「基礎科目」「専門科目」では、国際性、コミュニケーション能力、課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、キャリア形成力、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。
5. 「一般教養科目」では、自然・人間・社会を幅広く俯瞰できる能力、判断力・行動力、自己管理能力、主体性を養う授業科目を効果的に配置する。
6. 英語教育においては、少人数クラスや習熟度を考慮したクラスを取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
7. 「基礎科目」では、初年次より「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置し、併せて学生が自ら学ぶ学修時間を確保し、基礎学力を強化した上で、「専門科目」との接続を図る。
8. 「専門科目」では、講義の他に、多くの実験、実習、演習等の授業科目を重点的かつ効果的に組み合わせることで専門知識を深化させ、併せて他の授業科目との関連や学問探究の方法を学ぶ。さらに、3年次からは、各学生は研究室に所属し、教員の個人指導のもとに情報技術の専門をより深く学べるようにする。
9. 学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究を配置する。
10. 情報技術の分野にとらわれず、幅広く関心を持ち学修できるよう、他学部の履修や大学院科目の先行履修を可能とし、学生の学習意欲の向上を図るとともに、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。
11. 指定された教職に関連する科目を履修することで、教科「数学」（中学校・高等学校）及び教科「情報」（高等学校）の教育職員免許状を取得することができる。

入学者受入れの方針[アドミッション・ポリシー]

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、本学の教育研究理念のもと、

1. 高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力に加えて、情報系専門分野の探究や他の先端分野との共創を通して新たな価値を想像しようとする志を備え、専門分野の学習に必要な学力を持つ人、
2. 自立心旺盛で、将来広く国内外で活躍しようとする意欲を持ち、国際的な視野を持って活躍するための基礎的な素養を身に付けている人、

3. 自らの考えを表現する力を備え、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人、を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式 (4 教科型) 入学試験)

幅広い教科・科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テスト (4 教科) の得点を用いて選抜する。

(A 方式 (3 教科型) 入学試験)

学科の特性に見合う教科・科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テスト (3 教科) の得点を用いて選抜する。

(A 方式 (2 教科+英語資格検定) 入学試験)

学科の特性に見合う教科・科目に対する基礎知識と思考力、判断力及びコミュニケーションスキルとしての英語を活用する能力を持つ人を、大学入学共通テスト (2 教科) の得点と英語の資格・検定試験の成績を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

学科の特性に見合う基礎知識とそれを応用する能力及び思考力、判断力を持つ人を、独自の学力試験 (数学、英語、物理又は化学又は生物) の得点を用いて選抜する。

(学校推薦型選抜 (指定校制))

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人で本学を第1志望とする人を、書類審査、面接、口頭試問により選抜する。

(総合型選抜 (英語資格検定+特定教科評価))

本学の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲と国際的な視野を持つ本学を第1志望とする人を、書類審査、英語の資格・検定試験の成績、小論文、面接、口頭試問により選抜する。

(総合型選抜 (女子))

本学の特性に見合う基礎知識、思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲と卒業後を見据えた明確な目標を持つ本学を第1志望とする人を、書類審査、小論文、面接、口頭試問により選抜する。

(帰国生入学者選抜、外国人留学生入学試験)

海外で身に付けた能力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、資格・検定試験の成績、小論文、面接等により選抜する。